

五島列島の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

平口哲夫

定年退職後、ウチのカミさんのお供をして毎年のごとく国内・国外の観光旅行をするようになりました。私は学会・NGO活動の資金確保に窮しているので、観光旅行などする余裕はなく、カミさんが旅費を出すという約束で同伴。昨年は、2019年度秋季国内旅行「長崎浪漫・五島列島と雲仙温泉の旅」のC団(39名、10月16日～19日)に参加。

この旅行に魅力を感じたのは、以前から訪ねてみたいと思っていたながらその機会がなかった五島列島に行くことができるから。なぜ五島列島を訪ねてみたいかという、理由は二つ。第一に、上五島の有川は伝統捕鯨の基地があった場所であり、捕鯨の歴史・文化研究のうえで関心があったから。第二に、卯辰山トンネル建設工事現場で発見された多数の埋葬人骨が明治初期の浦上キリシタン殉教者である可能性があり、その保存に協力して以来、「隠れキリシタン」に関心を深めていたからです。

第1日目：10月16日(水)。長崎市内の大浦天主堂やグラバー園に行きました。ここを訪れたのは、1963年3月、高校2年の終わり頃の修学旅行以来のこと。境内にある「旧羅典神学校」内の展示を見学しながら、禁教時代におけるキリシタン殉教と、第二次世界大戦末期の原爆投下に慄然とし、その重い歴史的事実をいかに受けとめるか、改めて考えさせられました。長崎市内のホテルに宿泊。

第2日目：10月17日(木)。長崎港からジェットfoilで奈良尾港に行き、上五島の頭ヶ島(かしらがしま)天主堂、青砂ヶ浦(あおさがうら)教会、中ノ浦教会などを見学。頭ヶ島天主堂は、禁教令が解かれ島へ戻り住んだ信者たちが

1910年から10年の歳月をかけ、自ら切り出した砂岩を積み上げて造り上げた教会です。頭ヶ島の集落までは、「世界文化遺産 頭ヶ島の集落インフォメーションセンター」(廃止された五島空港の建物を転用)の駐車場で専用観光バスからシャトルバスに乗り換えて行きました。上五島観光のバスガイドさんは、50代後半の女性で、ご自分は仏教徒だと自己紹介しながらも、「隠れキリシタン」やカトリック教会のことについて、よく学んでおられるようで、分かりやすく解説してくださいました。奈良尾港からジェットfoilで福江港に行き、福江島のホテルに宿泊。



第3日目：10月18日(金)。福江島の井持浦(いもちうら)教会、大瀬崎断崖展望台などを見学。長崎港に戻り、雲仙温泉のホテルに宿泊。

第4日目：10月19日(土)。島原市内の雲仙普賢岳・土石流被災家屋保存公園、島原城などを見学後、帰路に就きました。

(すなどりNo.225から転載、写真拡大)